

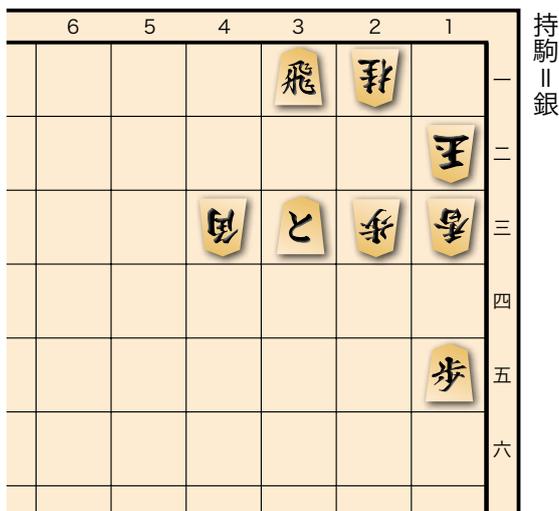
# 次の一手

## 答え合わせ

〈第3局〉

### 詰将棋 問題 9手詰 (10分で1~2級)

**ヒント** 初手は、他の手では王手が続かない。



〈監修〉中田功七段

### 詰将棋 答え

▲ 2 一飛成▽同玉 ▲ 2 二銀▽1 二玉  
 ▲ 2 四桂▽同歩 ▲ 1 三銀成▽同玉  
 ▲ 1 四香までの 9 手詰め  
 初手 ▲ 2 一飛成に▽同角は ▲ 2 四桂から早詰め。  
 5 手目 ▲ 2 四桂の犠打が玉の逃げ道、封鎖の手筋。

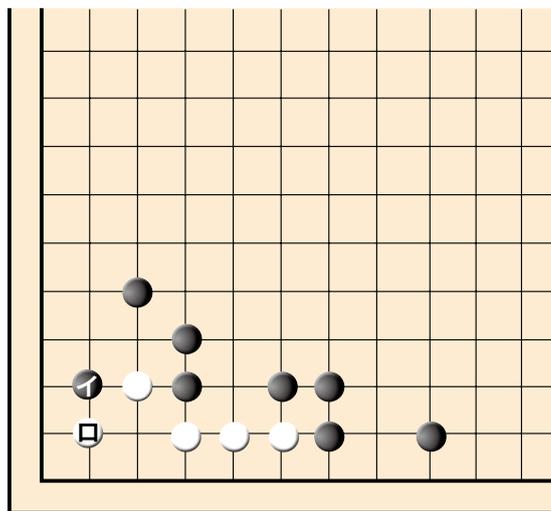
### 中田 功 (なかた・いさお)

1967年7月27日生まれ。福岡市出身。  
 第5回中学生名人戦優勝。80年、師匠 (故) 大山康晴 15 世名人門下として奨励会六級、  
 83年初段、86年4月四段、90年3月五段、  
 98年8月六段、2005年10月七段、11年現役勤続 25 年表彰。弟子に佐藤天彦名人。  
 人生の指針となる言葉「一期一会」。



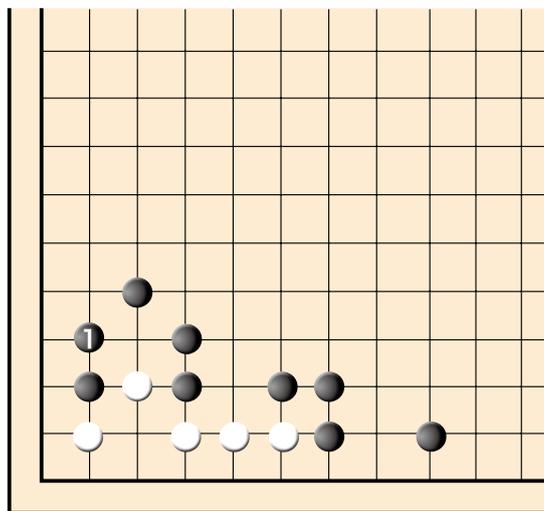
### 詰碁 問題 白をどう挟めるか? 黒先白死 (15分で初段)

**ヒント** 黒イにツケました。当然白は口にオサエて眼作りに躍起です。さあここでは、黒はどう打つのが筋ですか。



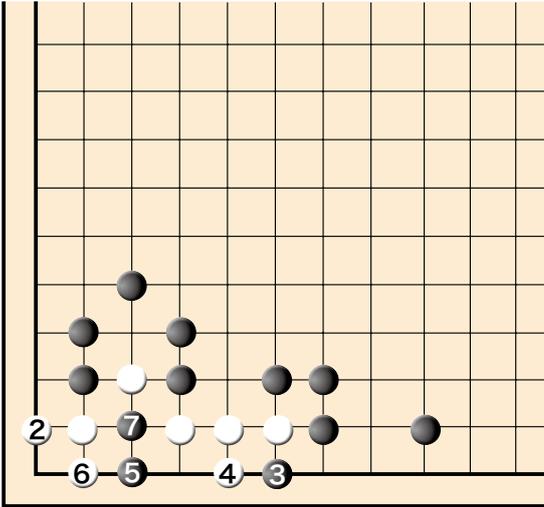
〈監修〉大淵盛人九段

### 詰碁 答え①



強い人は必要時以外は決してアタリを打ちません。ご覧ください、その典型が黒1のヒキです。ぬるそうにみえて、実は最も強くなやかな一着なのです。

## 詰碁 答え②



白は2と最大限に広げますが、黒3とハネて狭め、黒5から黒7がとどめ。きっちりきれいに仕留めました。黒1ヒキに込められた精神は、碁の手筋の本質ともいえます。この機会にぜひ習得して頂きたいものです。

### 大淵 盛人 (おおぶち・もりと)

1965年8月10日生まれ。福岡県柳川市出身。中1で碁を覚え、1981年4月上京、大枝雄介八段(当時)に入門を許され約8年内弟子修行を経験する。83年入段、97年九段。棋士養成機関で師範を長年担当。日本棋院常務理事。門下生に内田修平七段、奥田あや三段他。

人生の指針となる言葉「サムエル・ウルマンの『青春』」。

